

7 放射線に対する健康管理

(1) 外部・内部被ばく検査

放射線健康管理室

平成23年10月に放射線健康管理室が発足し、将来にわたる市民の健康管理及び放射線に対する健康不安の解消を目的に下記の事業を実施した。

ア ガラスバッジによる外部被ばく検査

妊婦、乳幼児及び小中学生にバッジ型の積算線量計を配付し、個人が実際に受ける外部被ばく線量を測定・分析するとともに、妊婦等へ積算線量計の貸し出しができるよう整備し、放射線に対する不安解消や健康管理に努めた。

	平成23年度	平成24年度
対象者	(妊婦、乳幼児及び小中学生) 46,303人	(乳幼児及び小中学生) 38,974人
測定者数	1回目 37,671人 2回目 36,804人	17,158人
3か月間測定者数	36,767人	16,223人
3か月間の積算線量の 平均値	0.26ミリシーベルト	0.14ミリシーベルト
結果に対する 市健康管理検討委員会 の意見	3か月で測定された線量から推定した年間積算線量は、全員が20ミリシーベルト/年を大きく下回っており、「今回の結果からは、将来、放射線によるがんの増加などの可能性は少ないと判断される。」	3か月で測定された線量から推定した年間積算線量からは、「将来、放射線によるがんの増加などの可能性は少ないと判断される。」

※平成23年度は、対象者ごとに保健体育課、児童福祉課、障がい福祉課、健康推進課が個別に対応したが、平成24年度は、放射線健康管理室がそれらの事務を一元化し対応した。



ガラスバッジ

◆ 電子式積算線量計の貸出し

ガラスバッジの対象者以外の方に対し、電子式積算線量計の貸し出しを行い、保健師による返却時の相談対応により、放射線に対する不安の軽減に努めた。

整備台数 貸出し件数
H24年度 330台（うち230台は23年度に整備） 216件



電子式積算線量計

イ ホールボディカウンタによる内部被ばく検査

市では、移動式ホールボディカウンタを整備するとともに、委託検査機関等と連携し、市民の内部被ばく検査を行い、放射線に対する健康不安解消や健康管理に努めた。

◇対象者

平成23年3月12日現在の全市民 292,240人
(妊婦及び18歳未満を優先して行い、順次対象年齢を拡大した。)

◇委託検査機関等

- ・福島県労働保健センター(平成23年11月28日～)
- ・福島県の移動式WBC車(平成24年1月23日～)
- ・福島市の移動式WBC車(平成24年2月27日～)
- ・福島赤十字病院(平成24年4月9日～)
- ・あづま脳神経外科病院(平成24年12月1日～)
- ・ひらた中央病院(平成23年10月1日～)

◇検査者数

【平成23年度】

・妊婦	69人
・0～3歳児の保護者	1,179人
・4～6歳児	2,223人
・小学生	795人
・その他(ひらた中央病院受検者)	620人
計	4,886人(検査率1.67%)

【平成24年度】

・妊婦	898人
・0～3歳児の保護者	3,051人
・4～6歳児	4,884人
・小学生	14,065人
・中学生	8,194人
・高校生	8,820人
・19～39歳	2,864人
・40歳以上	2,279人
・その他(ひらた中央病院受検者)	522人
計	45,577人

延べ50,463人 検査率17.27%



移動式ホールボディカウンタ

◇検査結果に対する市健康管理検討委員会からの意見

平成23・24年度ともに、全員が預託実効線量1ミリシーベルト未満で、「健康に影響を与えるような数値ではない。」との見解をいただいた。



ホールボディカウンタ(立位式)



移動式ホールボディカウンタの内部

(2) 放射線と市民の健康講座

健康推進課

震災・原発事故後、放射線への不安を訴える乳幼児を持つ親たちに、正しい放射線の知識と情報提供が必要と判断し、23年度既存の予算の中で、福島市医師会小児科医会と県臨床心理士会の協力を得ながら、9月から講演会、個別相談等を実施した。

平成24年度は、子育てこころのケア事業として予算化し、放射線を取り巻く状況、親達の意識の変化、ニーズ等を踏まえながら内容を見直し実施した。また、夫や他の家族、近隣住民、友人等との放射線の影響についての見解の相違が、母親達の不安を大きくしている状況から、一般市民向けの講座の必要性を認め「放射線と市民の健康講座」を開催した。

参加者アンケートの結果では、「放射線について理解できた」「不安が軽減した」が多くあり、正しい知識や情報を求めていることがわかった。

a 健康講座

◇子育てこころのケア事業

年度	対象	内容	講師	実施回数	参加者数
23	子育て中の親	子どもの健康と放射線	小児科医 (竹内真弓氏・市川陽子氏)	19会場 20回	1,062人
24	子育て中の親	子どもの健康と放射線 「最新の情報をふまえて～ 子どもの健やかな成長のために」	小児科医 (竹内真弓氏・市川陽子氏)	13会場 14回	248人
	妊婦と家族	赤ちゃんの健康と放射線 「現状(いま)を知ること、今できること」	放射線科医 (大津留晶氏・宮崎真氏・ 佐藤久志氏)	1会場 3回	44人
		子どもの健康と食生活 「放射線に負けないからだを つくる食生活のポイント」	管理栄養士 (関場治美氏・他)	1会場 3回	31人

◇放射線と市民の健康講座

年度	対象	内容	講師	実施回数	参加者数
24	全市民	「原発事故、放射線、そして 私たちの暮らし」	内科医(斎藤紀氏)	17会場 17回	655人
		「女性のライフサイクルと放射線～ 産婦人科医からのメッセージ」	産婦人科医 (小宮ひろみ氏)	1会場 1回	10人

b 個別相談・座談会・学習会

◇個別相談

年度	対象	内容	講師	実施回数	参加者数
23	子育て中の親	家庭訪問・電話・来所相談 等により個別相談	臨床心理士 (福島県臨床心理士会会員)	9回	14人
24	1歳6か月児の親	健診会場で個別相談	臨床心理士 (福島県臨床心理士会会員)	69回	69人

◇座談会・学習会

年度	対象	内容	講師	実施回数	参加者数
23	子育て中の親	同じ地域の親同士で震災後の 不安や疑問を話し合う	臨床心理士 (福島県臨床心理士会会員)	4会場 12回	89人
24	子育て中の親	同じ地域の親同士で震災後の 不安や疑問を話し合う	臨床心理士 (福島県臨床心理士会会員) 小児科医 (竹内真弓氏・市川陽子氏) 放射線科医 (宮崎真氏) 管理栄養士 (関場治美氏)	16会場 53回	772人
		親子遊び・リトミック (親子でリフレッシュ)	リトミック講師(高橋由美子氏) 体育講師(荒川保子氏) 保育士(市職員)	4会場 10回	256人

(3) 給食食材の放射性物質検査

保健体育課

福島第一原子力発電所の事故による食品の放射能汚染が懸念され、児童生徒の食の安全を確保することから、学校給食で実際に使用する食品の放射性物質の測定を実施した。

平成23年11月から4つの学校給食センターに食品放射能簡易測定器を配置し、学校給食センターの食材（5品目程度）は週1回程度、単独給食実施校の食材（5品目程度）は月2回の割合で測定した。測定結果はいずれも検出下限値20ベクレル/キログラム未満であった。

また、平成24年4月からは、給食一食全体の検査を開始し、各学校給食センター及び単独給食実施校とも、原則としてすべての給食実施日に測定している。（平成24年5月より測定下限値をセシウム134、セシウム137それぞれ10ベクレル/キログラムとし測定している。）



食品放射能簡易測定器



測定のための試料準備

(4) 屋内・屋外遊び場

ア おもちゃ広場(保健福祉センター)

健康推進課



遊び場整備

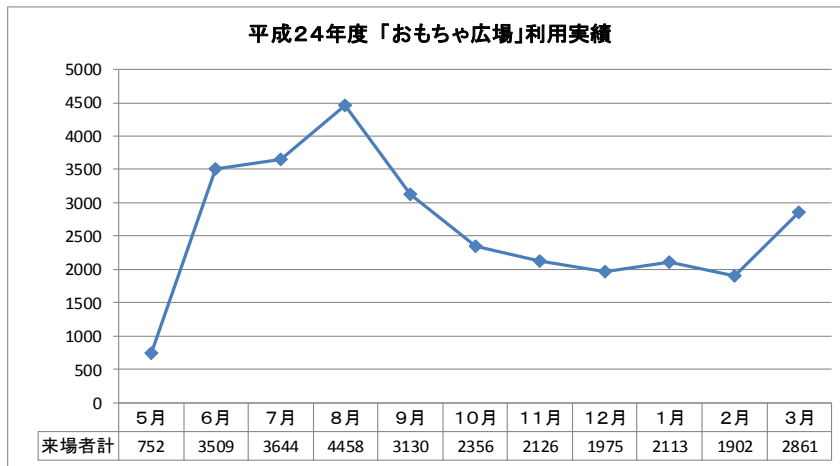
平成24年5月オープン

こどもの身体機能を高めるとともに心身のリフレッシュと家族や友達との絆を深める場として市の既存施設を活用し、屋内外に常設の遊び場を設置します。

事業名	おもちゃ広場整備事業	担当課	事業期間		
		健康推進課	平成 24 年 度	～	平成 年 度
事業概要		[参 考]			
放射線の影響で屋外での遊びに不安を感じる親子のための屋内遊び場の整備		H23決算	H24決算	H25予算	
		0 千円	1,689 千円	0 千円	
経 過		H25取組			
H23	-	H24	保健福祉センター6階に常設している屋内遊び場「おもちゃ広場」の環境整備		
		おもちゃ広場の継続設置・運営			

【平成24年度】

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子供	369	1,924	2,007	2,517	1,674	1,247	1,153	1,064	1,117	1,006	1,593	15,671
保護者	383	1,585	1,637	1,941	1,456	1,109	973	911	996	896	1,268	13,155
来場者計	752	3,509	3,644	4,458	3,130	2,356	2,126	1,975	2,113	1,902	2,861	28,826



◇5月は、毎週土曜日の開催。6月以降は、日曜日と祝日を除く毎日開催。

◇開催時間：AM10:00～PM3:00



イ 茂庭広瀬公園内遊び場

児童福祉課

東日本大震災に起因する東京電力福島第一発電所の事故による放射線の不安から外遊びを控える親子が、自然のなかでのびのびと遊ぶことにより、外遊び再開の切っ掛けとなるよう、市内でも比較的放射線量が低い茂庭地区に遊具を設置した。



平成 24 年 8 月 11 日(土)オープン

- 場所 飯坂町茂庭地区 広瀬公園内
- 対象：子どもと保護者、一般市民
- 遊具：複合遊具、雲梯、2連ブランコ、ムービング遊具、スプリング遊具、スカイロープ、タイヤ跳び
- その他：連絡バスの運行を行った。(1日3往復)
平成 24 年 8 月 11 日～11 月 11 日
のうち 40 日間
福島駅西口から広瀬公園まで

ウ さんどパーク(市民会館)

児童福祉課

東日本大震災に起因する東京電力福島第一発電所の事故による放射線不安から、外遊びを控える親子を対象に、ストレス解消と子どもの体力維持・向上を目的に設置した。



平成 24 年 9 月 29 日(土)オープン

- 場所：市民会館 1 階 第一ホール内
- 対象：小学 6 年生以下の児童と保護者
- 利用時間：1 日 4 回の入れ替え制(1 回 90 分)
10 時～11 時半、12 時～1 時半、
2 時～3 時半、 4 時～5 時半

○ 利用人数

年 月	子ども	大 人	合 計
2 4 年 9 月	4 7 9	3 8 1	8 6 0
1 0 月	4, 3 6 3	3, 5 0 2	7, 8 6 5
1 1 月	3, 1 2 4	2, 6 0 0	5, 7 2 4
1 2 月	2, 2 2 6	1, 8 2 0	4, 0 4 6
2 5 年 1 月	2, 3 7 5	1, 9 5 9	4, 3 3 4
2 月	2, 4 5 5	2, 1 0 8	4, 5 6 3
3 月	3, 9 2 5	2, 9 9 7	6, 9 2 2
合 計	1 8, 9 4 7	1 5, 3 6 7	3 4, 3 1 4

エ ぴよんぴよんドーム(十六沼公園)

公園緑地課

東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線の不安から、子どもたちの屋外活動が減少しているため、以前のように親と子が安心して遊べるように、除染の完了した十六沼公園（さくらの広場）内に遊具を設置した。



平成 25 年 4 月 13 日(土)オープン

- 場所：大笹生字組板山 十六沼公園内
- 対象：小学 6 年生以下
- 遊具：大小 5 つの山からなる空気膜構造遊具
最大高さ 2.2m
- 屋根：直径 40m、最大高さ 12m(軒の高さ 7m)
- 利用時間：午前 9 時～午後 5 時（日没、天候等により変更あり）

○利用人数〔平成25年度〕

平成26年2月末日現在

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
利用人数(人)	11,710	25,620	18,445	13,930	17,790	12,010	10,490	10,833	3,276	3,482	1,437	129,023

(5) 夏のリフレッシュ体験事業

生涯学習課

○ 平成 23 年度

- ・北海道夕張市 173 名参加
- ・新潟県湯沢町 1,127 名参加
- ・福島県喜多方市 367 名参加
- 8月19日～8月31日
- 小・中学生 計1,667名参加

児童・生徒の心身の健康やリフレッシュを図るため、自然体験や交流活動等ができる機会を提供



北海道の大自然



新潟：ツリーデッキで楽しむ



会津：野菜収穫体験